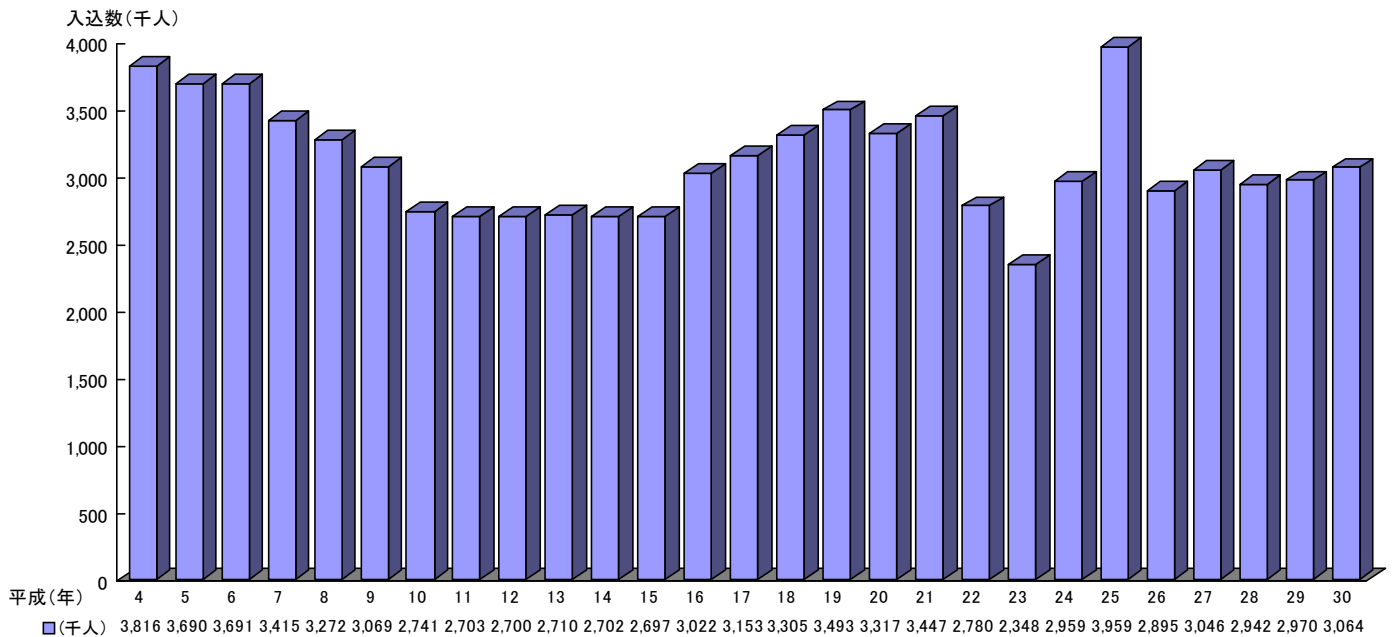


平成 30 年会津若松市観光客入込みの概況について



平成 30 年に会津若松市を訪れた観光客の総数は 3,064 千人となり、前年比で 93 千人増加(対前年比 103.1%)しました。NHK大河ドラマ「八重の桜」の放送により観光客が大幅に増加した平成 25 年(3,959 千人)には及ばないものの、「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が開催された平成 27 年(3,046 千人)を上回る結果となりました。

主な増加要因としては、戊辰 150 周年を記念した鶴ヶ城天守閣の特別展示や各種イベントの開催、記念映像の制作・配信などのさまざまな記念事業、さらには「極上の会津プロジェクト協議会」をはじめとした広域連携による周遊観光促進の取組などによる誘客効果と考えられ、また、台湾やタイ王国等に向けた海外プロモーション等の展開も訪日外国人観光客(インバウンド)の増加に影響しているものと考えられます。

訪日外国人観光客については、東山・芦ノ牧温泉の宿泊者合計が 7,088 人と、前年比で 3,797 人増加(対前年比 215.4%)しており、市内旅館・ホテルの宿泊者数を加えると 18,115 人となり、前年比で 6,358 人増加(対前年比 154.1%)しています。また、「V」案内所の外国人利用者数は 13,327 人と、前年から 2,086 人増加(対前年比 118.6%)しました。国別では、本市が観光誘客に注力している台湾や、2020 年東京オリンピックのホストタウンを務めるタイ王国からの来訪者が多く、中国や香港、シンガポール、アメリカ、オーストラリアなども増加傾向にあります。

また、教育旅行についても、平成 30 年度の県外からの来校数は 670 校となり、前年度比で 31 校増加しており、震災前(平成 22 年度 841 校)の約 80%まで回復しています。

今後さらに、宿泊施設の「泊食分離」を含めた「ナイトタイムエコノミー」の取組推進や、新たな観光コンテンツによる着地型観光の促進などにも取り組んでいくことにより、より一層の観光誘客を図ってまいります。